

麻酔・蘇生学

1 構成員

	平成22年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助教（うち病院籍）	5人（3人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	8人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	4人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	23人

2 教員の異動状況

佐藤 重仁（教授）	（H10. 4. 1～現職）
加藤 孝澄（准教授）	（H15. 10. 1～19. 3. 31助教；H19. 4. 1～現職）
五十嵐 寛（講師）	（H17. 7. 1～現職）
栗田忠代士（講師）	（H22. 2. 1～現職）
足立 裕史（助教）	（H22. 2. 1～現職）
小幡由佳子（助教）	（H21. 7. 1～現職）
山口 昌一（診療助教）	（H20. 4. 1～現職）
鈴木かつみ（診療助教）	（H20. 11. 1～現職）
中島 芳樹（講師）	（H16. 1. 1～H21. 12. 31）
鈴木 明（助教）	（H11. 11. 1～19. 3. 31助教；H19. 4. 1～現職）
谷口美づき（助教）	（H19. 2. 1～H21. 6. 31）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4編（1編）
そのインパクトファクターの合計	6.02

(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	3編 (3編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	1編 (1編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	14編 (13編)
そのインパクトファクターの合計	0.84

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kato H, Suzuki A, Nakajima Y, Makino H, Sanjo Y, Nakai T, Shiraiishi Y, Katoh T, Sato S: A Visual Stethoscope to Detect the Position of the Tracheal Tube. Anesthesia & Analgesia 109 (6):1836-1842, 2009 【麻酔・蘇生学】 [2.59]
2. Kurita T, Takata K, Morita K, Morishima Y, Uraoka M, Katoh T, Sato S: The Influence of Hemorrhagic Shock on the Electroencephalographic and Immobilizing Effects of Propofol in a Swine Model. Anesthesia & Analgesia 109(2): 398-404, 2009 【麻酔・蘇生学】 [2.59]
3. Adachi YU, Obata Y, Suzuki K, Kato H, Itagaki T, Doi M, Sato S: Nafamostat prevents hypothermia and improves survival time after administration of lipopolysaccharide in a mouse surgical model. J Anesthesia 23:624-627, 2009 【麻酔・蘇生学】 [0.837]

インパクトファクターの小計 [6.017]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 金子真弓, 桐田泰江, 望月利昭, 佐藤重仁: 東海地区学生 Advanced Cardiac Life Support (ACLS) ワークショップの特徴と問題点. 蘇生 28(1): 7-14, 2009【麻酔・蘇生学】 [0]

インパクトファクターの小計 [0.00]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 佐野秀樹: 徹底分析シリーズ 周術期の輸液管理 「麻酔中の輸液管理: サードスペースを考慮した投与方法」 LISA 16(1):14-19, 2009 【麻酔・蘇生学】 [0]
2. 鈴木 明, 佐藤重仁: 各種麻酔中の危機管理 腹部手術. 麻酔 58:572-577, 2009 【麻酔・蘇生学】 [0]

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 中川智永子, 中島芳樹, 佐藤重仁: 無痛分娩~世界の動向 (1) フランス. 分娩と麻酔 91 (別冊): 10-13, 2009 【麻酔・蘇生学】 [0]

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 五十嵐 寛：ペインクリニック領域でのロピバカイン使用 臨床麻酔実践シリーズ3 基礎から臨床応用まで ロピバカイン（アナペイン）の上手な使い方. 日本臨床麻酔学会編集 ライフメディコム

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 足立裕史, 山口昌一, 中島芳樹, 五十嵐 寛, 佐藤重仁：アミトリプチリンとパロキセチンとともにセロトニン症候群が生じたと考えられた1例. 日本ペインクリニック学会誌 16(1): 23-25, 2009
2. 足立裕史, 小島康裕, 河野伸一, 佐藤重仁：挿管困難で気管粘膜下腫瘍を疑った1例. 臨床麻酔 33(1): 105-107, 2009
3. 小林賢輔, 望月利昭, 小林 充, 秋永泰嗣, 川島裕也, 佐藤重仁：産褥期に癒着胎盤が疑われ全身麻酔下に単純子宮全摘術を行った1例. 日本臨床麻酔学会誌 29(3): 305-310, 2009
4. 足立裕史, 板垣大雅, 鈴木かつみ, 内崎紗貴子, 木村香里, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤重仁：複数の制限により末梢大腿静脈に中心静脈ラインを確保した1症例. 麻酔 58(7): 913-916, 2009
5. 山口昌一, 小島康裕, 高木佑美紀, 谷口美づき, 五十嵐 寛, 中島芳樹, 白石義人, 佐藤重仁：各種鎮痛治療に対するキセノン光照射併用の効果－大血管手術後痛症での検討－ ペインクリニック 30(9): 1231-1235, 2009
6. 足立裕史, 川島信吾, 石井康博, 板垣大雅, 谷口美づき, 佐藤重仁：動脈ライン確保時にエコーで気づいた橈骨動脈蛇行例 臨床麻酔 33(10): 1667-1669, 2009
7. 足立裕史, 内崎紗貴子, 板垣大雅, 鈴木かつみ, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤重仁：デキストロメトルファン(メジコンR)によりセロトニン症候群を来した1症例. 麻酔 58(12): 1531-1533, 2009

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Itagaki T, Katoh H, Adachi YU, Suzuki K, Obata Y, Doi M, Sato S: Hemothorax resulting from venous tearing by a catheter. J Anesthesia 23:636, 2009 【麻酔・蘇生学】 [0.837]
2. 中川智永子, 谷口美づき, 岡田尚子：ヘパリンを投与している患者の緊急帝王切開術の麻酔. LISA 16(4):348-352, 2009
3. 板垣大雅, 内崎紗貴子, 足立裕史, 鈴木かつみ, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤重仁：デクスメトミジンによる術後の鎮静中, 著しい呼吸抑制を認めた1症例. 麻酔 58(12):1534-1537, 2009
4. 川島信吾, 石井康博, 板垣大雅, 谷口美づき, 足立裕史, 佐藤重仁：内頸動脈への誤カニューレーション4症例の検討. 臨床麻酔 33(12): 1939-1941, 2009

5. 川島信吾, 加藤弘美, 板垣大雅, 足立裕史, 土井松幸, 佐藤重仁: マーデルング病の周術期管理経験. 臨床麻酔 33(8): 1351-1353, 2009
6. 小島康裕, 山口昌一, 谷口美づき, 中島芳樹, 白石義人, 佐藤重仁: 1年8カ月後にリードが体外に露出した硬膜外脊髄刺激電極留置の1症例. ペインクリニック 30(8): 1141-1144, 2009
インパクトファクターの小計 [0.837]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 河野伸一, 東 秀和, 小島康裕, 上原博和, 佐藤重仁: 重症な呼吸機能低下を有する若年性進行性肺嚢胞患者の麻酔経験. 日臨麻会誌 29(2): 217-221, 2009
インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (240万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	2件 (267万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	8件 (329万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 学術振興会科研費: 基盤研究(C) 加藤孝澄「神経原性疼痛過敏における一酸化窒素cGMP系の脊髄での役割に関する研究」80万円 (代表) 平成19年~21年
2. 学術振興会科研費: 基盤研究(C) 栗田忠代士「出血性ショック時の麻酔薬の薬力学的変化」90万円 (代表) 平成20年~22年
3. 学術振興会科研費: 基盤研究(C) 足立裕史「一酸化窒素の非シナプス型神経伝達に注目した麻酔薬作用機序の解明」70万円 (代表) 平成19年~21年
4. 学術振興会科研費: 基盤研究(C) 佐藤重仁「エバネッセント蛍光を利用した血中微量物質定量法の開発」10万円 (分担) 平成19年~21年

(4) 財団助成金

1. 日本蘇生学会第25回大会 他

(5) 受託研究または共同研究

1. シェリング・プラウ(株) 「エスラックス静注50mg/5.0ml 使用成績調査」40万円

2. 小野薬品「ONO-2745 第I相試験 一単回静脈内急速投与試験」227万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	4件
(3) 学会座長回数	0件	13件
(4) 学会開催回数	1件	2件
(5) 学会役員等回数	0件	19件
(6) 一般演題発表数	5件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

1. 佐藤重仁：運営委員 日中麻酔討論会（浜松市） 2009年10月30日 60名

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Sato S: Nerve Blocks for Pain Management in Japan: Past and Present 2009年中華医学会全国麻酔年会（Annual Meeting of Chinese Society of Anesthesiology）上海市（中華人民共和国）2009.09.03-06

5) 一般発表

口頭発表

1. Kato H, Suzuki A, Shiraishi Y, Nakajima Y, Sato S: Visual stethoscope to defect trachealtube position. International Anesthesia Research Society (IARS) 2009.03.14-17 San Diego USA
2. Kawashima Y, Shiraishi Y, Sato S: Does the Pleth Variability Index correlate with stroke volume variation? The European Anaesthesiology Congress 2009 2009.06.06-09 Milan, Italy
3. Adachi YU, Kimura K, Mimuro S, Doi M, Sato S: The nitroglycerine-induced nitric oxide release was enhanced by propofol in rats striatum-In vivo microdialysis study. The European Anaesthesiology Congress 2009 2009.06.06-09 Milan, Italy
4. Adachi YU, Kimura K, Mimuro S, Doi M, Sato S: The release of nitric oxide was enhanced by GABAergic inhibition and NMDAergic potentiation and the both effects were antagonized by propofol and sevoflurane anesthesia in rats striatum. The European Anaesthesiology Congress 2009 2009.06.06-09 Milan, Italy
5. Kojima Y, Nakajima Y, Sato S: Effect of sivelestat sodium hydrate, a neutrophil elastase inhibitor, on intestinal microcirculation during endotoxemia in mouse mode. The European Anaesthesiology Congress 2009 2009.06.06-09 Milan, Italy

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 日本臨床麻酔学会第29回大会（会長：佐藤重仁） 2009. 10. 29-31 浜松市
2. 第5回日本医学シミュレーション学会（会長：加藤孝澄） 2009. 10. 31 浜松市

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 佐藤重仁：会長講演「わたしの実践と評価は？」日本臨床麻酔学会第29回大会
2009. 10. 29-30 浜松市

3) シンポジウム発表

1. 森田耕司, 白石義人, 中島芳樹, 五十嵐 寛, 小楠敏代, 佐藤重仁：シミュレーションセンター開設をめざした高機能シミュレーター（HPS）活用の現況 日本臨床麻酔学会第29回大会 2009. 10. 29-30 浜松市
2. 御室総一郎, 白石義人：SpHbモニター（Masimo Rainbow SET?パルスオキシメトリ）は周術期管理を変えるか？ 日本臨床麻酔学会第29回大会 2009. 10. 29-30 浜松市
3. 鈴木 明：浜松医大麻酔科方式研修システム－HPSをいかに活用するか－ 第5回日本医学シミュレーション学会 2009. 10. 31 浜松市
4. 谷口美づき：産科大出血－部門を超えた新戦略－ 日本臨床麻酔学会第29回大会2009. 10. 29-30 浜松市

4) 座長をした学会名

1. 第20回日本ペインクリニック学会東海地方会
2. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第7回学術集会（加藤孝澄）
3. 日本ペインクリニック学会第43回大会（佐藤重仁，五十嵐 寛）
4. 日本麻酔科学会第56回学術集会（佐藤重仁，中島芳樹）
5. 日本蘇生学会第28回大会（佐藤重仁）
6. 日本臨床麻酔学会第29回大会（五十嵐 寛，栗田忠代士）
7. 第37回日本集中治療医学会（佐藤重仁）
8. 日本医学シミュレーション学会（加藤孝澄，五十嵐 寛）

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

佐藤重仁：13th Asian Australasian Congress of Anaesthesiologists 組織委員

佐藤重仁：日本臨床麻酔学会 理事

佐藤重仁：日本心臓血管麻酔学会 理事

佐藤重仁：日本麻酔・薬理学会 理事

佐藤重仁：日本麻酔科学会東海・北陸支部東海地区支部 理事

佐藤重仁：日本蘇生学会 理事

佐藤重仁：日本硬膜外麻酔研究会 理事

佐藤重仁：日本麻酔科学会 代議員
 佐藤重仁：日本局所麻酔学会 評議員
 佐藤重仁：日本ペインクリニック学会 評議員
 佐藤重仁：日本循環制御医学会 評議員
 佐藤重仁：日本臨床モニター学会 評議員
 加藤孝澄：日本麻酔科学会東海北陸地区理事
 加藤孝澄：日本医学シミュレーション学会 理事
 加藤孝澄：日本ペインクリニック学会東海北陸地区 理事
 中島芳樹：日本麻酔科学会東海北陸地区 代議員
 中島芳樹：日本医学シミュレーション学会 理事
 五十嵐 寛：日本ペインクリニック学会 評議員
 五十嵐 寛：日本医学シミュレーション学会 監事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

(1) 国内の学術雑誌の編集

1. 日本臨床麻酔学会誌編集委員長

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Anesthesia and Analgesia（米国）：1回
2. Journal of Clinical Anesthesia（オランダ）：3回
3. European Journal of Anaesthesiology（英国）：4回
4. Acta pharmacologica sinica（中国）：1回
5. 日本臨床麻酔学会誌（日本）：30回
6. 日本集中治療医学会機関誌（日本）：1回
7. 蘇生（日本）：2回
8. 日本ペインクリニック学会誌（日本）：3回

9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 音声可視化装置に関する研究

呼吸音・心音を3次元可視化する装置を応用した研究を行った。肺手術時に使用される分離肺換気時の呼吸音の変化をとらえ気管チューブ先端が気管分岐部より先端に進入するときの呼吸音変化や、小児で推奨されている気管チューブ留置法で主気管支から引いてきて気管に位置した時の呼吸音の変化など画像でとらえている。この内容を大学発イノベーションとして発表した。

2. 心肺蘇生法に関する研究

心肺蘇生法ではエピネフリンやバゾプレシンで心拍リズムが回復した後に急性肺水腫が問題になることが多い。また単剤での心肺蘇生法には限界があることも周知である。超短時間作用性のβ遮断薬が周術期の心機能を改善すると報告されており、この薬剤を心肺蘇生法でエピネフリンと併用する“カクテル療法”の検討を動物でおこなった。“カクテル療法”群では有意に肺水分量が減少し、今後臨床場面でも症例を重ねていきたい。

3. 出血性ショック時の静脈麻酔薬の薬物動態

低循環血液量（脱水）や出血性ショックはさまざまな麻酔薬の薬理学的作用を増強させる。しかしこの変化は麻酔薬によって一様ではなく、麻酔の二大作用である鎮静作用、体動抑制作用への影響も異なる。さらに出血に対する輸液や輸血もこれらの変化に影響を与える。我々は動物を使用した出血性ショックモデルでこれらすでに報告済みであるが、今後も引き続きショック時の麻酔薬の作用の変化について検討していく予定である。

4. 無痛分娩プロジェクト試行段階の終了

麻酔科医が硬膜外カテーテルを留置し、分娩まで妊婦の疼痛管理に従事する無痛分娩が試行段階を終了した。5年前のスタート時は3症例であったが、昨年度は50症例、今年度は5月の段階で既に35症例を数えている。今後は大学全体でさらなる啓蒙をおこない、一般人にも啓蒙用パンフレット作成、病院ホームページへの掲載などを通じ無痛分娩のさらなる充実に努めたい。

5. マイクロダイアリス法を用いた麻酔作用機序の解明

無麻酔非拘束条件下のラットに対して、in vivoマイクロダイアリス法を用いて脳線条体の一酸化窒素（NO_x）を測定する系を確立し、種々の麻酔薬暴露とNO_xの変化について研究を継続している。脳内の神経伝達にNO_xは重要な役割を果たすと考えられるが、これまでに、静脈麻酔薬や吸入麻酔薬が異なる機序で細胞外腔NO_x濃度を調節している可能性を証明してきた。これらの成果を国際学会に於いてこれまでに9題発表し、現在レビューを作成中である。2010年度からは新課題について、引き続き科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号22591706）の交付を受ける。より先端分野の麻酔作用機序解明を目指したい。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 麻酔科医が担当する無痛分娩症例が年間50例に達したこと。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. いずれの研究も海外での発表を行い高く評価されている。
2. 第2回中・日麻酔科討論会を開催し30数名の中国麻酔科医と交流を図った。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 静岡新聞（2009.10.27）「この人」欄で日本臨床麻酔学会第29回大会会長として紹介された。
2. 静岡新聞（2009.10.30）日本臨床麻酔学会第29回大会特別講演（演者：鈴木光司氏，斎藤 孝氏）の一般公開案内
3. 週刊病院新聞（2009.10.29）「日本臨床麻酔学会第29回大会の開催にあたって」と題して掲載